Uターン

八戸市→東京都→八戸市

小林 浩子さん

with cloth
（帽子製造）
2022年1月創業

Case 04

子どもたちを見守りながら好きな仕事に向き合える喜び。

好きだった服飾の道を歩みながら、東京で育児に仕事に忙しい日々を送っていた小林さん。
Uターン後に手に入れた青森での生活と創業の想いを聞いた。

コロナ禍をきっかけにUターン

夫と3人の子どもたちと暮らす小林浩子さん。大学では服飾を学び、都内のアパレルメーカーに勤務した。出産後は育児と仕事を両立するため、帽子の製造販売を行う会社へ転職。20年過ごした東京から八戸へのUターンを考えるようになったのは、コロナ禍で会社がリモートワークを推奨したことがきっかけだった。

「引っ越すなら、下の子が小学校に上がる前だよねと夫と話していたので、動くなら今だと思った」

会社員のままでは自分がやりたいことにも限界がある。八戸でも好きな仕事を続けられるように独立を決意。はちのへ創業・事業承継サポートセンター（8サポ）でアドバイスを受けながら、2021年1月に個人事業主となった。退職した会社とのつながりで、仕事の依頼を受けて自らミシンを踏む。

「創業時は書類作成で助けられた。確定申告すら分からなかったので」と苦笑する小林さん。経験分野からの起業であっても、経営者として初めて向き合う業務がいくつもある。中でも計画書や会計について相談できる場所があったことは心強かったと振り返る。

子どもとの時間が増えた

東京時代はとにかく忙しく、通勤に往復1時間半、コロナ禍で保育園が休園になると、日中は自宅で子どもの世話をして、帰宅した夫とバトンタッチで夜間に出勤する時期もあった。

「当時はやりたいことがあっても『何もできなかった』で終わる日々だった。起業した今は子どもたちを身近に感じながら、前より自由な時間が増えたと感じる」

現在は自宅の一角をアトリエにして通勤時間もなくなった。子どもたちの帰りを家で迎えられるのが何よりうれしいという。夜に作業するときも自宅だから一緒にいられて安心だ。

子どもを寝かしつけた後に作業することが多くなったが、自宅兼アトリエなので子育ても安心してできる

女性が働くチャンスを増やしたい

小林さんは、出産や育児で離職した女性が在宅で働く機会を提供できないかと、外注先の開拓を進めており、現在は関東に20人ほどいるが、青森ではまだ10人ほど。出産後の再就職は条件が厳しく、苦労する。小林さん自身も経験したからこそ、子どもがいるから無理だと諦めるのではなく、やりたいことに手をのばしてほしいと願っている。

「地方でも好きな仕事をやれると証明したかった」

小林さんが創業した理由の根底にはそんな思いがある。現在は東京からの受注がメインだが、いずれは地元企業の制服などをデザインしたいという夢があり、青森の魅力を形にするような商品づくりも考えている。今後は自身がセレクトした布地の販売事業も始める予定。自分が経営者になったからこそ、子どもたちに寄り添いながら、服飾の仕事を続けることができている。

インフォメーション

with cloth
k715125512525623@outlook.jp

青森でも好きな仕事を

小林さんの創業まで

- 2020年3月 勤務先がリモートを推奨
- 2021年6月 八戸で住居探し
- 8月 家族で八戸にUターン
- 8月 サポートセンターに相談
- 2022年1月 自宅アトリエにて創業

支援機関担当からの一言

「あおもり移住起業支援事業費補助金」の申請に必要な計画書作成を中心に、お手伝いさせていただきました。東京と八戸を往復しながら書類作成や取引先との調整を行い、そして育児まで、本当に大変だったと思います。それでも小林さんは、持ち前のガッツで、見事に事業を実現させました。今後も事業を継続できるよう応援しています。